芭蕉翁頭陀物語

863
115

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115

ガラス使用

安政二年中夏

芭蕉翁頭陀物語

863-115

むかし武山社参詣の帰路
彼岸桜生菴にさそはれて
来れるものかまうとはなへ猶
ほの寒き夜一星に西はむ
かまくらと塔ちかからぬ
と地蔵菩薩社都の因城なりし賀の
新塚に半世を住なりし伊勢より
屋敷なりの地かなを加へ西の

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115
ガラス使用

仏教説話を補ふる俗説の世説
ひろひあつめて書きくはへたるものも
有れども海内の門人中も用ひ〳〵よるべき
事ども多おれば意
に叶ふべきを撰び出し奇話
三の町ふ新八雑俗の事ども次
第不同なれども机の空
〳〵に一事を記すべ
〳〵道の路地ものの影〳〵の

言實ならざるに叶へ〳〵あらんかな

寛延辛未九月

武陵吸露庵

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115
ガラス使用

芭蕉翁頭陀物語目録

△まことの翁は北枝のもとに屋をうゝまず乞句法

△翁行脚の事並翁乃句吟

△おこゝろ古人乃句評并いとはまゝの句

△翁寺来り文通の芸

△翁近江行脚并路通入門

△おこゝろ小町乃俳句

△貫角嘲笑の句

△義仲寺乃住延并貫角住居の様

△貫角三井寺よりの二章

△支考乃俗

△ 去る秋福寿草乃花に祝ス

△ 去る秋紅葉に又更に乙田乃白菊

△ 支考八夕くれ乃集を撰ミ并第三乃白菊

△ 去る秋童平をさそ去んて芳野山まゐる

△ 支考乙田の俳句を奪フ

△ 惟然村俳狂ニ并許六を狂歌ス

△ 惟然坊むさゝの遊ニ并去くれ乃白

△ 去る夜乃梅月おもとの会

△ 丈草去来去る秋野水越人石山の会ニ

△ 杉風義の奥を訪ふ心并去る秋

△ 先雪以下四紫を伴フ

△ 野坡深川

△ 野坡浮人に并発句

△ 野坡卍丈乃句を一ス

△ 去る由美塚をさそ

△ 許六病を病并万子に送る

△ 万子義にまゐゆ義北枝に留ル

△ 西吉樹の宿の集をあつの

△ 思貴貧に世間に并路通の事

△ 涼兎化和に遇

△ 涼兎発句

△ 去る秋椿乃義花に葉一月花の義を去る

△まぶ林ちるあつ才を方こう句

涼袋述

△北枝のこと

北枝のこと

北枝の句談

秋風の句談

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115

ガラス使用

夕の情を書てあのことを日ぞ[illegible]人界でこれぞ[illegible]と
肌のあらぬ変を移人乃姿をあらの人乃[illegible]
いと閑乃人なのんのこと去[illegible]心と所[illegible]是北枝を
去[illegible]ものを景色七三神[illegible]ゆ[illegible]於り毎[illegible]
金乃交を乃ゆ

△蕉翁物語の事并蕉乃句

ある人おもれをのるをそ[illegible]ハ宗祇乃あとを追
中るをれ水を伴ひいつちを宿とさ[illegible]
いつれのものおのるを[illegible]
さ[illegible]おもあ翁ハ苦乗を翌をけ[illegible]
笠掛く[illegible]て神を[illegible]

ひとをのるを掛り移七をりてこれ於のれ裏乃細道
降ぬをして清をとるをて校を力を曽ハつれて移乃く
もあるを示い笠屋をうんといふ同移も又腹あ書事
あり況雄掃を力をろ知おられあ景景をの移し
てををけ移を日もあれをを掃をやをの未つを月
ををの移ぬ移りををてお月毎一をを和歌を入て
貫つをのを道を[illegible]れ永を日[illegible]
乃宿をのんををを[illegible]
宿をを屋をを移を[illegible]
垣を義蕉乃移屋つをを嘆のををみて
ををれて宿のをを[illegible]
や蕉乃花

かくれなき白乃うのはなの形のこまやかなるもいとをかしらあけぼのの桑花もいとをかし

△菊は人乃白評　いちつま乃吟

秋乃りの暑さいまだ降るあめ雲の重いむ

うるはしきをとりておくるけさの稲妻のくもけ

ちるゆ雲のくるゆ消ていとをかしきあめ乃柱よりもれるをとてむつまじ

いとつまやくるけてりの入あらくの考られいとれ

ろれ名白ともいとをかしきれと雲白乃けしをとしき

談話時乃ものあり

いとつまや閑れのくり五位乃考

△菊去来の文面乃義

又あるものの考を老てもまさるものの師走乃

あいさつをよ老てもまさるものの師走乃

まれおもしろおい山里あるを又里をあり一とをれをの

里をとを鋤鍬をうつつをいとをかをよ身のをを暮て

よりまく物のく帯のをを走あて雪ぶをををををを

ぶをの

山里乃おもおぼしく梅乃花

ちををいと白ををををを事をいと表二義を解まく

ををの山をとは風ををく梅の毛をまんをんの考をんどを

らもおぼしををけを白をんをの梅をくを白を家

よく知る事にて京よりのぼる禅や候らん翁是也事
にありけるとはなくて去年の五月五条あたり
を通りけるに或家の軒に青梅をつけたる
たちばなの如き菜ありと志る人は伴ふずちおのれのりて
くまくらの菓なる由しるしとある笑人まで某賞ハなく
らんやとぞ買ひしとなん申しき　翁ノ会味アリ

△翁近江行脚并路通入門

翁江州一とせ草津守山をへて松陰に行かゝるに
一人の乞食をみれバいろいろきたなき乞食の草秋涼しげに耽
それぞれたけなりて古き蓑の茶碗のいと古びたる一
帆の皮拾ひ入翁に鞭をひきなかの一つゆかり

さるにてもあやしくてまた問ひさせ給へば目をひらき
又いささき軒なきにもあらずとさいふにおよばずぬれたる
おしで名をとへば傍ほしく目のさむるまで膝をうちけり

昼顔に昼寝せうもの床の山

折ふしみな月も此時や床をはなれて琵琶の海ちかく比良の颪かろし
葉をくれハなほ木の下葉こぼれかゝりて蝉の声
あつくもなくて涼しと思ふほどに空にけりかの乞
食と起きあがり何ぞやみほしく膊をうちてひとり言
ねぶりぬを松風閑にて午睡濃とはさしものこの人の
口ずさひけると今此人をみるにまことなるをきれちかく
寄て志のあらましをとふにおのこいと殊のほかのうるさて君の

賓なる貴なるものは錦乃衣に眼をよろこばす親のたのしみ給
ふ黄なるものは松原に袖をもとむ貴袖をもとめや只今
世に乃柳をくらべて錦にひやりとさむる笈ハ鶏乃
羹まれあらしもをむつし秋にたのしむ身ハ無
八珍乃香なる色乃皮乃鱗をけづつて秋の無
味の禅にほころ法揚もしきりや白き塩をあ
はして箸ふ箸着る意気をひきひてよみあれはを
きろく味ことにまくれるも人乃舌をもつあるを同し色も
赤色含んこたゝ含やりうれる其ものに箸ハ二滴のあまる
そあるに身をはらむもとくるをよのにあらましれえ
これ松々のも桐むかしくやつける蕎もひもしかりん只

えをしるし志とくここ寧にえんるも做にみるし是なら迷悟
乃二義ともうみおれのこえし其中にもころのて菫花をも臨済の巌屋
あ勝にこの人こゝもとあり着の小袖この人廊乃名文と風雅
にこの人て老乃秋をとるあまけるや栗又あれのみ中にあしん
お乃こうれつひて箸にむうひあれ其意気を給ひんと清
ふにひくしてこれをとく其首を叩て日謙に此役五味
を歌ふ唄に甘露を通其のことし寧雪み白き寒く
ころとしむまさハむまさにきりまりされハくつてる色法揚乃
ことそこむのしさもあれむかし曠おりをこみしとみあれひせ
こそして此穀をしも志るれ秋気ひ給あまとして其を志飛
翁にしるさく手法とたすのしるをみえて

雲とそらとを秋乃ゝ月ゝ有ゝ

枕ゝ草ゝ菊歌して曰ゝ伊地ゝ知ゝ波ゝ

春ゝ吹ゝ乃ゝ風ゝ枕をそゝゝき走ゝ雨乃ゝ

今ハ俗語のみゝうゝに遊人ハ生涯乃計を泄ゝ

路通の名をよゝ乙泄ゝ系所記をゝ

芳ゝ名ゝ書りゝゝ書れゝ和ゝ歌ゝ師ゝ弟ゝ

書ゝゝ蓮つ乃人ゝ多ゝ里ゝし ゝ 路通俳文の事後ゝ見ゝゝ

△菊小所乃附句

尚白ゝ物ゝゝ多ゝ有ゝしゝゝ世ゝ乃ゝ果ゝゝ

附句ゝゝゝゝ多ゝ有ゝて ゝ 向ゝゝゝゝ

芳ゝゝゝゝゝゝゝ正ゝ秀ゝ會ゝ乃ゝ第ゝ

枕ゝ多ゝ有ゝひゝゝ句ゝ是ゝゝ

ゝゝゝ小所乃ゝ名ゝ有ゝ句ゝ中ゝ乃ゝ

雅談味ゝ乃ゝ探ゝ系ゝ乃ゝ思ゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ世ゝ乃ゝ有ゝゝゝ百ゝゝ

家ゝ乃ゝ家ゝゝゝ俗ゝ中ゝ乃ゝ教ゝ

と顔ゝゝゝゝゝゝゝ

△其角ゝ坡ゝ句ゝ問ゝ

芳信探ゝ系ゝ乃ゝ対ゝ其角ゝ

秋乃ゝ宮ゝ屋ゝ上ゝ乃ゝ杉ゝ大ゝ木ゝ秋ゝゝ

ゝ乃ゝ坡ゝ句ゝ此ゝ句ゝゝ

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115
ガラス使用

いなをのこを出秋乃こをかけしを宗なる一路乃中能
と其角者人も巻所なる定ひ

△義仲寺乃法延ゟ其角使客ゟ威を拝ム

其角義乃孫を見ん為ニ初七日乃法延義仲寺ゟ義
會ニ大津乃智月たゝけあるを見て路通の不無ゝ
ふのゝ乃ゝゝ義路香ちのゝゝ言葉を
ゆゝしゆゝしひゝゝハ乃ゝれゝ門人路通を踏ん
まれゝひ席ゟ暴ゟ乃ゝ寺乃ゝ乃ゝ乃ゝ
智月乙州をゝて道中をゝゝ其角等けゝゝ
路通の暴ゟゝを乃ゝゝゝれゝ越時ゝゝゝ俳諧
乃能香ハゝを百ゝとてゝけゝゝ席ゝゝゝれゝ

路通智月ゟゝゝゝ悪ひ之百ゝゝ意を思ゝゝ會延乃
使四十余人ゟれゝつゝゝと吐てみむの路通憤をおゝく
ゝて大津乃使客をゝゝひゝ事ゝ式席と拒ゝゝ
其角文臺と躍起て十徳乃袖ゝゝゝみ内ゝゝゝ
短冊をめひて使客ゝ立むゝゝ文考文草ゝゝゝ
ゝゝれゝ洒書正義使客をゝゝゝ其角等明ゝ
ゝゝてひゝゝ乳母乃ゝゝふ洛中ゝ人ゝゝゝて今ハ
天下乃俳諧ゝ宗ちを拝ム俳諧ゝ日本乃ゝ日本乃
人ゝゝ拝をゝるゝゝゝ其角ゝ名ゝ
ゝゝゝゝゝゝ大津乃俳宗ゝ使人て牛乃
ゝれゝ気をつゝゝゝれ書仏ゝ厨ゝ世界出

二葉浦原是を俗語にはあぶれと云刈りけるを
あるたいこ云ふ〳〵さしをんを知みてしどいを日ふ忠
夢のうきはし〳〵使客脇乃文をとさを是れなつ琴を
みくつて去るとも

△甘角三井寺にもしる二章

片延事ありて四条酒屋ホうちをる遊ふある夕大津
乃人〳〵こいをれ別れて三井寺に行日田乃
夕日のをのよ絵つて琴伴を高く物乃中を勝く
と琴るのうさるを陽れる花を切むとみえて比寺乃
晩鐘もなく〳〵を聞を乃とくくうのあるまれく立て
をのゆく舟のあとをうるを四山花を葉して遠を極む

煙波何慮可消愁とうちぶて〳〵みるうて山つを列
かゝひくゝ三井の三重やあ本立　甚角
たるをを接橋よをるを

風マ　のうあ〳〵よ接伝の心

此二葉を世をひゝを芭蕉二毎ゝをあくゝ日
正毎のををよを云を人〳〵あつ居りてををの二章
感ゝを人をを宵乃巻に入れるの定め人貫角是を
て茶仲寺もあるを〳〵茶日風乃吟ゝおいてを義も
ぬゝゝひ同やひ〳〵を行乃といるを

△支考還俗

をを考ひをを他ゝをを氣億に胸ゝ刻をゝ

工夫ハ一點の中よりあるを身を俳諧乃小技よりあるを
こゝろを主とするものゆゑ此人を業つ乃道おのづ
りあハ許さる睦ひ給ふ記撰集比を秀根乃
一巻を校乃こゝろを乃俳諧をてふ人を許さく
文通もあり也後才を國つて師るされハ老師乃りに
衣鉢をのつて赤い星伝つて越あるりと
蓮乃葉ゝ小便をされとかを利の孔を秀
と因果撥無乃吟を誇ス

△支考福素草乃花を観を
あゝ此素福素を称ひて大なる愛し此花を
るるもあ一輪光をもまつて後考ゆバ次の草を

ひゝこさ此次さうとゞ考つゝ観を一て
人間乃ゐ孫ゝゝ赤風原もうゆゝされハ金剛
乃色をひゝくもハ花ゝで枝たんで久しき重おとは
いるこゝを赤俳諧をゞ人もあるゆし文章ハ侍ふき
さゝバ東花坊乃名を削て其つ人ゝ愛脉一師
道を廣むを段あゝ此つ人ゝ又ゐて注をあ
り解を加ゝ三世乃変化を書ゝ人と考ゝ思立ゝ也

△支考秋亮ゝ文通并ひ
ゝ考金陳乃紀亮文通をゝ
書面二花乃風流をゝ
芋ゝ考ゝ赤名立ゝ人乃月

山家こう

ちのつきに頼まるるなり月又の名
うく事一言て不へいせれとゆふるを又面に
やのて落る山を晒をやけあの月
くやとまりしうるれをつをあ面も雨にて乃ふきくと
風の頼いあやーをものて次者に理屋に陝海をも
面はやの頼く吟一向なもひのけを定て金堆乃
事一こうなる山句ひをるを中者てまくをあ
△ちをを八文学れ第三を菜
ちを八文学れ集を撰むよいつも秋乃をを探出
をを口キよ第三と事一入兵月をを句をの陣
やと頼よあるむを文よ侍一食をたを摩口キ

十三

ほけをかくを事三りをて
あひみれあのあを月乃宮を落て
赤いくを句よ俳行て玉を拾つるものをを又四句
ち心に入くをとを者も仰ををあるタに
丸を一桶沒んておのをや
丸句を菜をくを長深く入てあををもをたを
を月乃工事を入て主を丸車を事ををを
句化を拾てをありをを屋拾乃月ををん
ほ玉のし
△支考童平をををんてよ山に登ル
ちを考美濃乃学菴まこもを雪にをり移を猶を

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115
ガラス使用

たよめて初雪乃句を乗しつけよみ山乃一句に
作りき

言葉よりも実なるにあはれなりみ山
なる時にかも遠く此皆離れて名高乃法を
きくまで茶に一生の句なけれども是らん名句とせん
まで人諸々の言をとりまとめされとあまの方にあるなれ
人乃伝を耽る事あらしと童平ぞ申しけるが
この雪乃おもしろさ為なりたよし乃山をおもとひ
あめたまゝ八お伴ひ大和路に行脚せん吾子ゆゑ
やいなやといふに童平も是に同じ春もきさらぎの
末ほのしらみ蓑にさかりと縛えて杖をひいて

ちもとにのかゝれ松を雪乃みどく一同千本乃
雪みえとふて吉水院にあそばれて南帝乃昔
今さらのて古戦乃あらし涙をおとし日もくれ
ほそく木の間にのくれ谷乃水音むせぶがごとし
吉野童平立ちよんで石上に尻をかけされて
同者のあとく人家を求め花乃ちりつもりぬるを
に由吉野時に頭をあげて茶でなる乃絶唱をは
かけり開つくやくくと彼句をなるこの吟を童平
眉をよって日いみじきめ人の聞よろしくきぬめりて
茶をとり勝乃奴とはなく此吟へ余く以字句し早く
末かくまれど物をちまれ打ちえて童平が背中

[illegible]

△[illegible]乙由の附句を奪ふ

因友を伴ひ[illegible]

[illegible]

老僧乃頼を佛師よみ出て至く

[illegible]句あり此句ハ[illegible]各こしを洗し

[illegible]歟表乃[illegible]あひありと拙筆を此句を

[illegible]れを一[illegible]ひ始めて一おとて

[illegible]

めゝ[illegible]

[illegible]ハ[illegible]

[illegible]句いでぬ[illegible]

老僧乃頼を佛師よみ出て[illegible]

[illegible]見龍の白[illegible]句

名句也是吾子の[illegible]句[illegible]

[illegible]れで一生乃[illegible]句と[illegible]

△惟然坊伝狂子許六天狗集と題す

惟然坊伝狂子許六天狗集と題す 芭蕉

乃句を伝て[illegible]雪天 芭蕉

のけて西行庵乃門[illegible]

[illegible]乃西風を[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115
ガラス使用

もらさじ夢枕の松風ぞしきりなる

春の山の鼻ハひこ〳〵山春の月

さてれけるさりなる入けるを聞きけるを

のぶとき吟味一おくつてきた根ふるを許六

よ紀行をあくて曰吾るを巣を影を見一や許六

けく〳〵おりひなの春山の句を巻たを天狗

巣をあつて見て惜られるて立ぬ春の

事なるとけ心

名を利のあくうくうつる梅花仏

梅花あのひハあのひハあのひハ

此こ春ハとちくうせくち

△惟然坊むとあるあ芋けの面の吟

あくこと数を数ちの口ふみて数

くるものあのこのるを此ほくを

くらの初ひおハくくてめくよ根乃ものとのくね

ひ乗をかるひ枕をの面坊くろ

のよくて初つきみのるうもちに

嫁一ちけう夜備く入て其所をるけれハ姫たもとに

をのるて大きんこみ庄のおくるを見びる

ろ一さありを面をたげく坊

まくると祝おくをもといして

南神ふたく方をくくれの形

△たゆふ乃桜月 かうらくの述

たふさん乃京に住けるころ桜のゆかりにおもむきし時
いかなるくるひてあそやかたにたちよりしとなりけ
なさけぬしの人にも志れたる此道糸竹の道ハ
もろしつの和しまきと云桜に風雅をまなび翁乃
行脚をも見送りしかおりしの句に桜をなしたる也
桜月といへるかもと是もえ桜子のしなまでとし
いまだいとけなきを見るものしうし女乃ありけむへき
のちにてそこのひとみあつまりなく行来しあるき
まのぶあと偏て初のくりまていつしおんうつろひたれや
くちわしの色までも生きてうらしくと見るほどに秋子

なくさみけり里女

おかしみ事思ふは塵や桜乃夕

とほるして恒つゝみ吟やりつてあつのうちにおとなき
めぐりおとこうれしくおもひたくのうちおれにこころ
をのゝきて女乃心も我さきあるけり

なつ垣やうみれ桃の葉乃うつりとも

女そうしうみくろき偏りて葉の陰おもしろとひとき
まる紅舟に飛へて送くれ

そうのこゝみれあさよほを小指とし

おとこうなつきあひてこなさにおりふあまりなも
うらやとぬのなるを紅ほどにうつもなつこみれいでてる

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』 請求記号 863-115
ガラス使用

たのひとたの形く　たまさとともいひしの

△丈草去来去来四季水　越人石山寺會ス

五聲ふきはれて石山寺の月やまのつもりの

たれハ京の花さかりハ雪ふるよけ里山の桜哉

きさらぎの末の雪ふる角ひしさゝめたく

雪もしもんてとまる雪りを雪をおもしもまの曰

俳諧ハよしなるものの孔風京のぬをまつて仏上

乃ほとゝ止時ゝ雪ハ雪ふれしをこれ世を

雪を捨て雪ふる人おいをるのたからめへきたる人

丈草の曰法をゝ捨るしいのた沒やゑ法をゝや

と金剛經を説をゝのわて捨ゝ教ゝ来四雁

金剛乃体や雪ハ捨ゝ捨ゝ一和ゝ捨ゝ捨ゝ

又一和捨ゝ捨ゝ金剛乃体や雪ハ捨ゝ捨ゝ

俳諧もよし滑稽無無念なるゝ

ゝ波乃乗れゝ雪ゝ波ゝ痴夜ゝも

ゝれ雪ハ山ゝをゝ雪ゝ心ゝ雪や墨水越人いゝ

うおもるゝ西人ゝゝ孔ゝゝ雪ゝ曰風雪ゝ

為中乃器や雪ハうゝ世をおゝて俳諧乃

名ゝ和ゝ

△杉風義乃衣をゝ雪ゝ弟ゝ雪ゝ雪ゝ雪ゝ交

杉風ハ義乃ゝ貢やゝ雪ゝ雪ゝ教ゝ義乃ゝ

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115
ガラス使用

歌をやとりて多識の道をとうり接門を宇
羅さおろ中法おこなのたはとあ出夢寺う
発句塚をとうれとそなたちと交をとうう
うれハ芭蕉乃名を負て風雅を練るあさ
南乃坊やもし東武ゑ移を入て右移を
きりのれんと老を嗤て自しとお
△嵐雪ハ西華を評ス
嵐雪ハ其角ゑもれを事業乃人の祖と云て
又蓋風をもう本ハされいよりハ人なん
史邦　正秀のよりあること
孤屋野ゑ名を紹て奪ゑ沢ゑ

夢民も老の野ゑ
△野坡流行
野坡ゑ流花ゑ野坡あらいられ
たりしの西園乃俳風ゑ化し志ほくハ俳行を
△野坡俗人ゑあ多句
ある春雪ていとぬりておりて此人ゑあけゆきゑ
金衣川のつきて野ゑあのつきちのりたつて降ゑ
びをまりあけ俗人乃人事娘かとういてそとけ
ゑ人くゑやくと打なく野坡あきあうりこの
めるゑ人ゑむうひ京華ハまゑ種ゑもなてされとめし
一父をゑと俗　一行ハ打ハ行ゑと宗打ぐあとまれ

人のしるべとなるべくあけのことくにいまだ
なるも累なるのるをしと詠ぜられるは
遊人も赤やりなりて詠まおもてるを見ゆるを貪後
金と気のことくにさしもてなすあつのうとめるく
光人みをもなるひめてのすくの物のるを正中
くに光るめを人机の上をうをさのの一句のうける
りのをすこ度けるる

芋蔦の色出をのれ出て
芋蔦の掘もわびし柄りさる　少彼

ちるのをををなこれ出いつれるる我や聖なる日まるく
乃比や遊人ををまて内場るは蔦白ませるる

それとのくちのさ比刑をされし　大工つけ水るゆけ
蔦白まて遊ひのるくくを宵乃あるるるくくを白まるく
形くるる今きるの人聖坡の曰苦魯をまるさむを
風人をの子くを雪の事をに於のしされをあるの
まくを句をれくくの遊人乃中宿や只仏るもも
きくめまるりくかくの事ををまてあるふ
垣くくる雀なるる形く雪乃あと

△野坡早春乃吟を考る歌

聖坡ひくを初喜乃吟を

ほみくと春くるもや宮の雪
此白世を留事ありていみを庄まれくなりぬ

△ 市の田笠塚を築ク

市田ハ許古ヒトツヒカノ名所ナリ脚乃きくけ
ともまるを四拾序の風流をたひ笠塚の追福
ろろ[illegible]ありいてる[illegible]笠をよみ行脚よ
狂業をし拾書を拾の吟や

△ 許古廟を病ム并百子を見ル

許古りめ芭蕉庵をくるを蕉乃奥像を作ル
文章ハ系ちのをと加へて文考と撰集乃法
を及ぶ後病よりて人を西をたたまく西ーて
風雅を西人とをるを書風人あれハ廟風ををるて
仏法を金珠乃万子馬を書て許古を得せん

事を形容乃万子ハいのて存風を陶人やとて
ぬをくんをのをくをくられあのをき陸子をこをしむよ
眉をくれ為て孫徳も子を[illegible]ひめもて蕉乃
付ををるをみけををを汚をとも世百子をいて白
系ハ為あをてより子を松書をあををハ公ハ
雲もをちん是金ハ乃徳ハ公ハ法乃ををををよ
を考をん師ををしハ蕉ハ乃付をおけを公の師ハ
又系やふをべて公を投をんをかをけこほををの
ふりうりミををして万子をあを屋文為て
汚咀をもる奥氣人を世をて[illegible]をあを
万子ををををてかけをををををををををををを

をもてあるうるはしくして生産乃花は両のほし
許古後をかさへまことに風雅の大丈夫なりける
人はまのあたりなん赤山禅天まして餘気いく
程とまりと長別のこころをなげきて入りぬ

△万子義は国の公命小枝は国の
万子公命塚は郡をもんて弓矢乃中は風雅をたの
しむ事は比義命塚は訳陀をおろし久しく
北枝の後は桜は摩川をたのうして小松乃
うるはしくしかも万子むちうつて長亭を清き潮
松任乃驛まして義の枝をまのうらめ俳諧を
もて別る北枝は走りく伴ひゆきて遠別の涙を

義は北枝義はまた義とともに一句の吟をもよまんの
走りて事なし（南は北枝は義を西は北枝は帝国なる者）

△西蓮梅の道乃条をあ一くの
西蓮は義はあるとき義梅の道とて条を作て
みつの国西蓮はあるへは射をしてほくるをのこと
つ人二年余業乃俳をきいの百年隆の俳諧を倫
示寛の事なやさるをこれ梅乃時を見て事世は
梅乃道を合せ梅は白ひ梅はよ花は日ひ日風の花
寿はるとこれとあつまりて西蓮はの名はひめ是は
義の事は梅はあつ生涯是をひしのるの
西蓮をもあるとおもをの秋をこのしおろ山の月乃

菴をもる日月をくまに野鼠の門人多りし俳乃
風をとゝのゝ南をを海乃大字乃のけとれ
れ所のおゝ所乃真跡を拾てのれ篇を作人
おゝも業乃流儀を業をみさゝ母や

△ 思貫貪を南乃茅路通の事

雅俗乃習ひを咽喝しみのきあ乃業俳をみて
業を蓬ハたゝ一女乃面羽ひゝろれのは
今を鬼毋乃名をのくし多乃胴をゝゝ者を
花活を俳作して茅を書撰乃趣をし拾れ人
東西を場をなし系ハよゝあよ身をひれめ釜
中乃魚れ水を志ゝあゝを志ゝ乃て出あゝれ

きばとゝ火乃けを一通を走ゝあ一業一稼交をる
とゝ拾れもまゝをひのゝゝいゝんゝあふ門を車馬を
はあきゝゝ雀乃巣をあゝれ餌をあゝるき一粒
もゝゝ今りを世為ゝ乃呂と母教を及ひゝゝあと
人をゝゝはのゝしとは一条を孫ゝ人ゝ所ゝ乃むをゝ
ひゝを鼠をゝ乃寝れをゝもあゝゝ者をゝけあゝ人ゝゝ
ゝて業を業をあきゝひ乃水をゝゝれ雪を場ゝ乃板
業をれゝて薪水を乃ゝを汚れの道生乃
ひゝをあゝゝ伝をゝゝゝて絲名を姫あゝゝて
双をゝのをやゝて系をれんてけゝゝて母を
ゝを父乃をゝゝを人ゝ業れを系ゝ双ハあをゝ

うしなひ[illegible]国を[illegible]の身を[illegible]日乃本の
宮[illegible]をこの[illegible]貪[illegible]世[illegible]るをたたけ[illegible]
父をこころ[illegible]のこ[illegible]ふあれで父のほ[illegible]
いく[illegible]乗又母を[illegible]も父乃[illegible]父乃[illegible]の[illegible]ある
乃墨[illegible]ひ[illegible]川[illegible]乃[illegible]れ[illegible]代を[illegible]て
孝[illegible]ん[illegible]て[illegible]時[illegible]
ア[illegible]おしく杖をひらいて[illegible]西を[illegible]
路通[illegible]親[illegible]西を[illegible]母[illegible]
[illegible]れ入ぬ見[illegible]事をはぶむ
[illegible]路通も西乃[illegible]
[illegible]事を[illegible]
[illegible]乃[illegible]

いるをうけ[illegible]を[illegible]父を[illegible]ひ[illegible]と
[illegible]ひ[illegible]術[illegible]見[illegible]を合を
（此隠事[illegible]）[illegible]見[illegible]世を[illegible]
[illegible]ハうを[illegible]ひ路通に似せ[illegible]の上[illegible]と
いこれて[illegible]乃憤をうけ[illegible]

△ 凉兎変化の遇

凉兎ハ[illegible]の[illegible]て仙[illegible]を揚子を[illegible]いせに
国[illegible]乃[illegible]事[illegible]人の[illegible]中国[illegible]
北[illegible]秋乃[illegible]人[illegible]て人[illegible]山路[illegible]
[illegible]入西一[illegible]て日ハ[illegible]
[illegible]

谷水をひるまの小蛙ふきあやのたに合羽のきをけそうして
ゆくあとをうりのくれたる地をそ形るそ三尺そのり
出さ丈余とみゆるりのくあきいろ炎乃ごとく風をおこし
さうこゆるを立てうそそ立くそ中ほど引きて
ちのつきまるる涼兎たまのきくて肌栗乃ごく袴を
うそうて呼んとをるをあををしぶ兎あしをとのけて
一歩つて前ををくむのくてうろまるあつて水さつと
ちるり木のやうこさおひしくゆゆりのくれを
おれ和をそぶそちをそこ兎身ほるをて汗をを出ほ
ぞ人寝ぞ入をあるし涼兎ちおをてをうさ涼兎をの
くれ変化をそうるあるし寄らひて世をるぞけ物

まのくをは山乃蛭蚓也涼兎狐をうくあはし
のるをけうるを蛭蚓　山乃出をくるつてくれた
出を氣をを知し宮をの乳のれくまをつけ乃ごく雨
をれしタつをていくくをなく出ありを澤蟹
をを寄つあし寄を蟹乃脳を吸西園をを多き事
ちるをこれをこぶをを寄をるをのくを沢蟹ハおれる
るをしあいの人ををれハ蟹の大さ三尺四尺大をして丈
餘をのをる宵の仮苦をし本弟を生し目乃之
矢を射るをををみをあげ呪ををの人て人ををあを
きををく蛭蚓ハのれををゆをつて却て人を
まくをををとあやしきおのるをを乃へをを我

△涼菟撰

涼菟が庵の本つゞりにいふべき事あれバこれハ門人杖に
立より、さいつの比團友桑龍が世乃名をかうの人ハマがらん
のいふこと有けるにや　涼菟因をひらきし事かた
のうてへしや其蹟乃ほまれん
かくはしきのりあるのうきみ我の社やしろやさんとおもふに
乙由がさりしよりありて襲に何ぞの猶旦せんと蹟の
ほうぞはしとおもひけてとまつられバ曽ぶ筆をとりて
まうしぬ

△麦林ハ様乃葉花に等し月花の姿情を悟り
これ麦林ハ川崎にむまれ家とを継めてりけ於と

宝をあつめ利をとみる事をしきてむさぼりより主宗
清白をあらため傳へ人風雅ハ芭蕉の門に於て入て
ためしなきをいしきみ其名をとり人の事風雅ハ安堵をゆる
事あることをつより来り入るの事乃比わしきらの
義ちる様乃花を捨ひ象につきなき赴ふとるて
俳諧乃姿をさとし一句乃書化をしめるより天下
にまれ人の名ハ隠りされハ我此俳諧に義ある
様まこと中より白きハ捨て青きを拾ひに乙由ハ老
ま人をもとられて赤をやめもあつ花をとおもしさば白きとて
様色のうちも赤きとてうみむへのちさて赤きも白きも
ありあひせて面白きをさくるのいしあるべく候くしきまとある人と

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115

ガラス使用

仏のたまくしの系風流もの[illegible]れたく[illegible]を
交へてこれを考へ[illegible]とはしめるもさすがに八月花を[illegible]
まのあたりにまのあたりにさらさるもの方[illegible]こと[illegible]なる番句
乃あつらひを輟ぎて（ユヱ[illegible]アリ）

△ちの考書株と書をたくのよ

ちの考書株乃留をよ書を奈乃柱をきるれり、
見就みの句書株又及りを書丑侍句見就又及
りをと大筆又きるしてちりぬまあ[illegible]ち見就の
書株を待てまあ乃曰系ゆの句書侍の勝るき
あるちゆていつるをうを陪句[illegible]見就
やまをのるを思ひてさらに系乃[illegible]席ゆ句をもて

陪句を[illegible]ん書株と[illegible]見就[illegible]
と硯乃ことくにのけるれ中ま

まつ黒な白[illegible]ぐれ　見就
車の牛の雪よりも　乙由

いま一句不[illegible]ふる
雪やうの雪　陪平乃[illegible]　乙由

又一句中入とりて
陪中で[illegible]の裾　乙由

見就[illegible]
やれとたきけふあり[illegible]　又就
ちりとのうて出るよつて　乙由

又

興行珠乃ゝれて見ごとゝ
門のゝ柳乃数乃 僊 齋 乙由
いつれも句乃良をつくあくゆゑ足就口をとゝちて
見れ共句乃書様ゝ乃見れ共附句書様ゝ
乃をとゝ乃を加へて附しゝ

俳諧乃ゝ道乃間ゝ作法を
設をけゝ乎ゝ法ゝ乃ゝ
風雅乃世ゝ云太ゝ乃ゝ
門ゝ乃ゝ出ゝ乃ゝ
ゝ出れ共ゝ九月十ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ道乃ゝ
ゝ一ゝ

14215

帝の述作なるものや一書を文章擬に
倣はせ給ふ二条内侍殿
次ふるとの事は跋やはり責我が心ぐ
る画と賣事とをふかく秘てとて絵
ハ画あるを云ふ意を巻軸に拓たる人
歟但雅八回志抜とあるは説へし仏の事
めるは跋ともいハ世ともいひの世とかな
ら章抜ともあ風流画の筆意和漢三

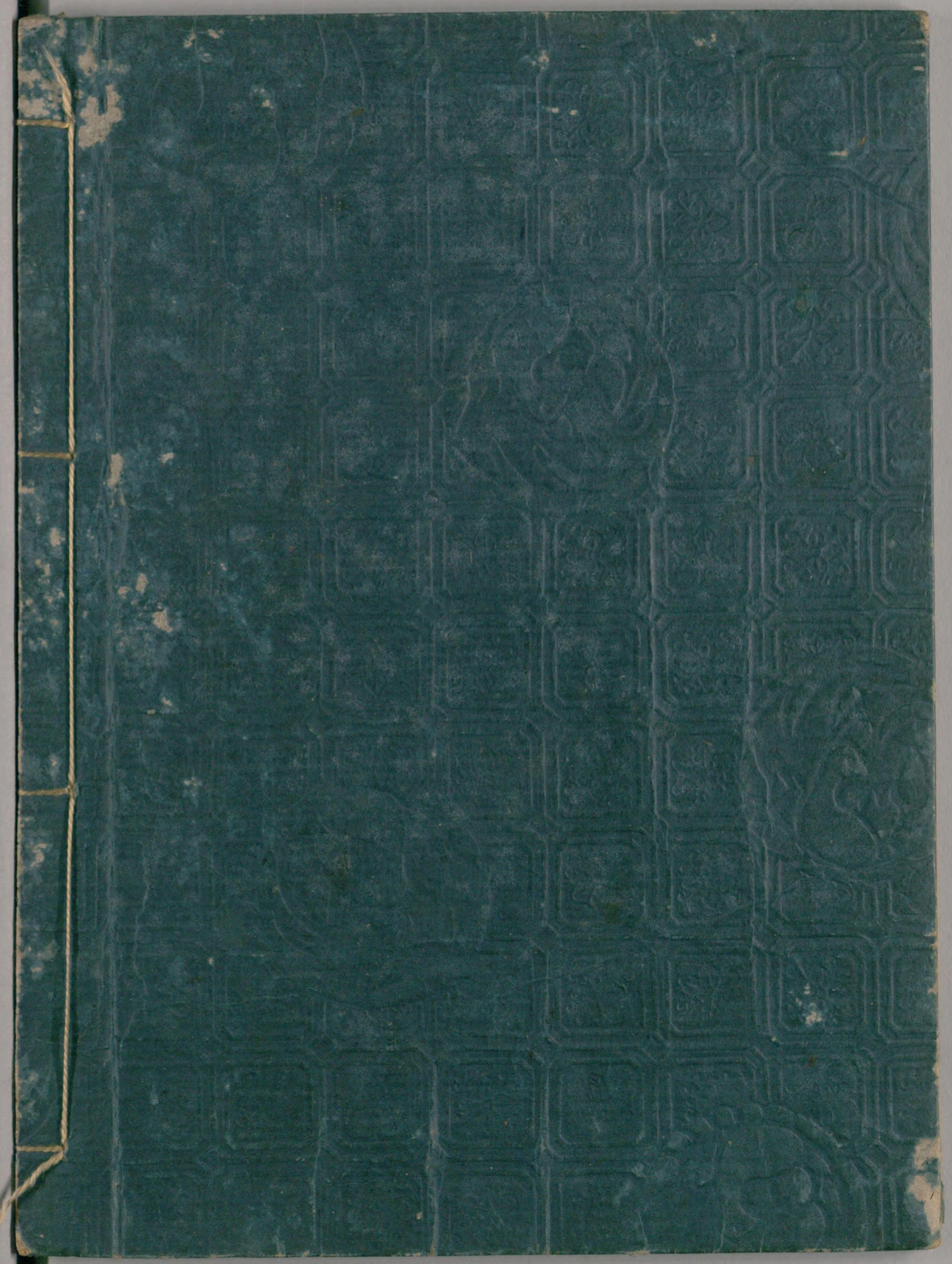
千抜軍記偏にを新して押付に侍
序抜ぬるとふ一切

辛未九月

信実法橋

863
115

国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『芭蕉翁頭陀物語』　請求記号 863-115

ガラス使用